

[クロチアニジン水溶剤]

農林水産省登録 第20798号

性 状: 青緑色水溶性細粒

毒 性: 普通物

危険物: —

有効年限: 5 年

包 装: 125 g × 60、250 g × 30

# ダントツ® 水溶剤

有効成分: クロチアニジン .....16.0%

殺虫剤分類 4A



「住友化学農業ガイド」の見方: i-農力サイトの「製品情報」、「農業ガイドを見る」から、「農業ガイドの見方」をご覧ください。  
本剤の最新情報: こちらのQRコードを読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報をご覧いただけます。

## [適用と使用方法]

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10アール当り散布量	使用時期*	総使用回数*	使用方法	
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 イネドロオイムシ イネアザミウマ	4000倍	60~150ℓ	7日前	本剤: 3回 加アネシ: #16	散布	
	ウンカ類 カメムシ類 イネドロオイムシ	1000倍	25ℓ				
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ	200倍	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り2.5~5g (希釈倍数100~200倍)	移植3日前~移植日	本剤: 1回 加アネシ: #21	育苗の上から均一に散布	
		高密度には種する場合は50g/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り1.25~5g(希釈倍数100~400倍))					
	イネドロオイムシ イネミズゾウムシ	200~400倍					育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り500ml
		高密度には種する場合は50g/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り1.25~5g(希釈倍数100~400倍))					
きゅうり	ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類 コナジラミ類 カメムシ類	2000~4000倍	100~300ℓ	前日	本剤: 3回 加アネシ: #1	散布	
メロン	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類 ウリハムシ ハモグリバエ類						
すいか	アブラムシ類・ウリハムシ ミナミキイロアザミウマ						2000倍

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10アール当り 散布量	使用 時期*	総使用回数*	使用 方法
なす	ミナミキイロアザミウマ ハモグリバエ類 アブラムシ類 コナジラミ類 テントウムシダマシ類 カメムシ類	2000~4000倍	100~300ℓ	前日	本剤: 3回 クワアニシ: #1	散布
	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類					
ピーマン	アブラムシ類 コナジラミ類 カメムシ類 ミナミキイロアザミウマ	2000~4000倍 2000倍	25ℓ	7日 前	本剤: 2回 クワアニシ: #4  3回	
とうがらし類	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	2000~4000倍 2000倍				
ばれいしょ	アブラムシ類	2000~4000倍 1000倍	25ℓ	7日 前	本剤: 3回 クワアニシ: #5  本剤: 2回 クワアニシ: #6	
	テントウムシダマシ類	2000~4000倍				
だいこん	アブラムシ類 ダイコンハムシ	2000~4000倍	100~300ℓ	前日	本剤: 2回 クワアニシ: #22	
レタス	アブラムシ類 ナモグリバエ・アザミウマ類					
非結球レタス	ナモグリバエ	2000~4000倍	100~300ℓ	3日 前	本剤: 2回 クワアニシ: #7  本剤: 4回 クワアニシ: #11  4回	
はくさい	アブラムシ類					
キャベツ	アオムシ・コナガ	2000~4000倍	1ℓ/ペーパー ポット1冊 (3ℓ/m <sup>2</sup> )	定植 前	本剤: 1回 クワアニシ: #12	
	アブラムシ類・アザミウマ類					
ねぎ	ネギアザミウマ	2000~4000倍	100~300ℓ	14日 前	本剤: 3回 クワアニシ: #12	
わけぎ	ネギハモグリバエ					
あさつき	アブラムシ類	2000~4000倍	100~300ℓ	7日 前	本剤: 2回 クワアニシ: #20  本剤: 3回 クワアニシ: #3	
てんさい	テンサイトビハムシ カメノコハムシ テンサイモグリハナバエ アブラムシ類					
かんしょ	アブラムシ類	2000~4000倍	100~300ℓ	3日 前	3回	
やまのいも						
豆類(未成熟、ただし、えだまめを除く)						
豆類(種実、ただし、だいず、あずき、いんげんまめ、らっかせいを除く)						

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10アール当り 散布量	使用 時期*	総使用回数*	使用 方法	
いんげんまめ	カメムシ類・アブラムシ類	2000~4000倍	100~300ℓ	前日	3回	散布	
	インゲンマメゾウムシ	2000倍					
だ い ず	マメシクイガ	2000~4000倍		7日 前	本 剤：3回 加子アニシ：#17		
	アブラムシ類 カメムシ類 フタスジヒメハムシ						
あ ず き	アブラムシ類 マメホソクテゾウムシ			7日 前	本 剤：3回 加子アニシ：#23		
に が う り	ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類	2000倍		前日	本 剤：3回 加子アニシ：#2		
と う が ん	ミナミキイロアザミウマ			3日 前	本 剤：3回 加子アニシ：#13		
食用へちま	アブラムシ類	2000~4000倍		前日	本 剤：3回 加子アニシ：#19		
チンゲンサイ	ハモグリバエ類			7日 前	3回		
非結球あぶらな 科葉菜類(こま つな、チンゲン サイ、なばな類、 みずなを除く)	アブラムシ類				本 剤：3回 加子アニシ：#17		
み ず な				4000倍	前日		3回
オ ク ラ	アブラムシ類			2000~4000倍	3日 前		本 剤：3回 加子アニシ：#17
ほうれんそう							
こまつな か	アブラムシ類 ハモグリバエ類			2000~4000倍	3日 前		3回
しゅんぎく	アブラムシ類						
み つ ば	アブラムシ類			2000倍	#8		2回
未成熟とうもろこし	アブラムシ類 アカスジカスミカメ ツマジロクサヨトウ						
せ り	アブラムシ類	4000倍		14日 前	1回		
パ セ リ	アブラムシ類	2000~4000倍		3日 前	本 剤：3回 加子アニシ：#2		
セルリー							ハモグリバエ類
か ぼ ち や	アブラムシ類・ウリハムシ	2000~4000倍		7日 前	本 剤：3回 加子アニシ：#3		
	カボチャミバエ	2000倍					
れ ん こ ん	クワイクビレアブラムシ	2000~4000倍		前日	本 剤：3回 加子アニシ：#23		
え だ ま め	アブラムシ類 カメムシ類 フタスジヒメハムシ						
ブロッコリー	マメシクイガ	2000倍	3日 前	本 剤：3回 加子アニシ：#13			
	アブラムシ類	2000~4000倍					
	アオムシ・コナガ	2000倍					

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10アール当り 散布量	使用 時期*	総使用回数*	使用 方法			
はなっこりー	アブラムシ類	2000 倍	100~300 ℓ	前日	本 剤：2回 加チアニシ：#18	散布			
に ら	アブラムシ類 ネギアザミウマ	2000~4000 倍							
	ネギネクロバネキノコバエ	2000 倍							
にら (花茎)	アブラムシ類 ネギアザミウマ	4000 倍							
アスパラガス	アブラムシ類 ネギアザミウマ ジュウシホシクビナガハムシ カメムシ類	2000~4000 倍		前日					
みょうが (花穂)	ナスコナカイガラムシ	2000 倍		#15					
みょうが (茎葉)				7日 前					
く わ い	アブラムシ類							#14	
りんご	カメムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ シンクイムシ類 アブラムシ類 コナカイガラムシ類 リンゴワタムシ・ケムシ類 コガネムシ類成虫	2000~4000 倍		200~700 ℓ			前日	3 回	散布
なし	シンクイムシ類 アブラムシ類 コナカイガラムシ類 カメムシ類・ケムシ類 チュウゴクナシキジラミ								
すもも	クビアカツヤカミキリ	2000 倍							
	カメムシ類 アブラムシ類								
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類	2000~4000 倍							
	コガネムシ類 クビアカツヤカミキリ								
おうとう	オウトウシヨウジョウバエ カメムシ類	2000 倍				2 回			
うめ	ケシクスイ類 クビアカツヤカミキリ	2000~4000 倍	前日		3 回				
	ケムシ類・カメムシ類 アブラムシ類								
ぶどう	コナカイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ ブドウトラカミキリ カメムシ類 コガネムシ類	2000~4000 倍							
キウイフルーツ	アオバハゴロモ キウイヒメヨコバイ カメムシ類								

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10アール当り 散布量	使用 時期*	総使用回数*	使用 方法	
かき	アザミウマ類 コナカイガラムシ類 カキノヘタムシガ カメムシ類 カキノヒメヨコバイ	2000~4000倍	200~700ℓ	7日前	3回	散布	
かんきつ	アブラムシ類・ミカンハモグリガ アザミウマ類・ケシクスイ類 コアオハナムグリ・ツノロウムシ コナカイガラムシ類 ゴマダラカミキリ カメムシ類・アゲハ類 アカマルカイガラムシ ナシマルカイガラムシ ミカンバエ ミカンキジラミ コナジラミ類 アオバハゴロモ	24倍	4~8ℓ	前日	本剤:3回 加子アニシ: #9	無人空機による散布	
	カネタタキ	2000倍	200~700ℓ			散布	
		24倍	4~8ℓ			無人空機による散布	
		48倍	8~16ℓ	無人空機による散布			
	ミカンハモグリガ ゴマダラカミキリ	20倍	100ml/樹	150日前		6回	樹幹散布
	ミカンキジラミ	40倍	200ml/樹	生育期			
かんきつ (苗木)	ミカンハモグリガ ゴマダラカミキリ アゲハ類・アブラムシ類	20倍	10~100ml/樹	#10	3回	散布	
マンゴー	アザミウマ類 コナカイガラムシ類	2000~4000倍	200~700ℓ	7日前			
いちじく	アザミウマ類 カミキリムシ類	2000倍		3日前			
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類	2000~4000倍					
	コガネムシ類	2000倍					
あんず	アブラムシ類	4000倍		45日前			
パイナップル	ナガカタカイガラムシ ヒラタカタカイガラムシ	2000倍					
ブルーベリー	アブラムシ類 ケムシ類 オウトウショウジョウバエ	2000~4000倍		前日			
びわ	アブラムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類	2000倍					
	カミキリムシ類						
さんしょう (果実)	アザミウマ類	4000倍		2回			
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ マエアカスカシノメイガ	2000~4000倍					
		カメムシ類	2000倍				

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10アール当り 散布量	使用 時期*	総使用回数*	使用 方法
オリーブ(葉)	オリーブアナアキゾウムシ マエアカスカシノメイガ	4000倍	200~700ℓ	120 日前	2回	散布
な つ め	ゴマダラカミキリ			7日 前	3回	
わ た	アブラムシ類	2000倍	100~300ℓ	発生 初期	2回	10秒 間苗 浸漬
パイナップル (苗木)	パイナップルコナカイガラムシ		—	植付 前	1回	
茶	チャトゲコナジラミ	2000~4000倍	200~400ℓ	摘採 7日 前 まで		4回
	マダラカサハラハムシ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソガ ツマグロアオカスミカメ コミカンアブラムシ				100~300ℓ	
き く	アザミウマ類 ハモグリバエ類・カメムシ類	4000倍	1ℓ/m <sup>2</sup>	発生 初期	4回	散布
	ナモグリバエ アザミウマ類 アブラムシ類					
ば ら	コガネムシ類	2000倍	100~300ℓ	発生 初期	6回	散布
	アザミウマ類	2000~4000倍				
花き類・ 観葉植物	アザミウマ類 アブラムシ類		2000~4000倍	100~300ℓ	発生 初期	4回
つつじ類	ツツジゲンバイ	5回				
たであい	アブラムシ類	2000倍	200~700ℓ	成虫 発生 初期	本剤:5回 加7:3回	散布
デイゴ	デイゴヒメコバチ					
さくら	クビアカツヤカミキリ	2000倍	200~700ℓ	成虫 発生 初期	本剤:5回 加7:3回	散布

- #1: 4回(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回、散布及び定植後の株元散布は合計3回)
- #2: 4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)
- #3: 4回(植付時までの処理は1回、植付後は3回)
- #4: 3回(定植時までの処理は1回、散布及び定植後の株元散布は合計2回)
- #5: 4回(植付時の土壌混和は1回、植付後は3回)
- #6: 3回(は種時の土壌混和は1回、は種後は2回)
- #7: 3回(定植時までの処理は1回、定植後の散布は2回)
- #8: 親株養成期 但し収穫45日前まで
- #9: 6回(樹幹散布は3回、散布及び無人航空機散布は合計3回)
- #10: 春芽・夏芽又は秋芽の発生前
- #11: 4回(定植時までの処理は1回)
- #12: 4回(定植前の灌注は1回、散布は3回)
- #13: 4回(定植時までの処理は1回、定植後の散布は3回)
- #14: 散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用
- #15: みょうが(花穂)の収穫前日まで但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了時まで
- #16: 4回(直播ではは種時又は移植時までの処理は1回、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回)
- #17: 4回(は種時の土壌混和は1回、散布は3回)
- #18: 3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)
- #19: 4回(は種時及び定植時の土壌混和は合計1回、散布は3回)
- #20: 3回(植付前の処理は1回、植付後は2回)

#21: 4回(移植時までの処理は1回、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回)

#22: 5回(定植時までの処理は1回、定植後の散布は2回、定植後の株元散布は2回)

#23: 4回(は種時の処理は1回、は種後は3回)

作物名	適用場所	適用害虫名	希釈倍数	107-1当たり 散布量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
水田作物、 畑作物 (休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、 セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が 優占している休耕田	カメムシ類	4000倍	60~ 150ℓ	—	4回	散布



## 効果・葉害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ調節する。
- 稲(箱育苗)に使用する場合は、育苗箱の上から所定量の希釈薬液を均一に散布する。また軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには、葉害を生じるおそれがあるので注意する。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が50g/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を1.25から5gまでの範囲で調整する。
- 稲及びばれいしょに対して希釈倍数1000倍で使用する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用する。
- ぶどうに使用する場合、袋かけ前までの幼果期に散布すると品種によっては果粉が溶脱するおそれがあるので注意する。
- かんきつに樹幹散布で使用する場合は、樹幹部から地際部に十分量を散布または塗布する。
- かんきつに樹幹散布で使用する場合は、散布液が葉にかかると葉害を生じるおそれがあるので、葉にかからないように十分注意する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。



## 安全使用上の注意



- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意する。
  - ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しない。
  - 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさける。
  - 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努める。
- マルハナバチに影響を及ぼすおそれがあるので注意する。
- 本剤を無人航空機散布による散布に使用する場合は次の注意を守る。
  - 各散布機種種の散布基準に従って実施する。
  - 散布にあたっては散布機種に適合した散布装置を使用する。
  - 散布中、薬液の漏れないように機体の散布用配管その他散布装置に十分な点検を行う。
  - 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し散布区域内の諸物件に十分留意する。

- 水源池、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意する。
- 作業終了後は次の項目を守る。
  - ・使用後の空の容器は放置せず安全な場所に廃棄する。
  - ・機体散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理する。
- 本剤は、眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受ける。使用後は洗眼する。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意する。
- 散布後は水管理に注意する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

## 〔品目特性〕

- 浸透移行性に優れ、カメムシ目、ハエ目、コウチュウ目、チョウ目、バッタ目、アザミウマ目の各種害虫に高い防除効果を発揮します。
- 幅広い殺虫スペクトラム  
アブラムシ類、コナジラミ類、ウンカ類、ヨコバイ類、カメムシ類、コナカイガラムシ類などのカメムシ目害虫、アザミウマ目害虫に加えて、ハモグリバエ、ハモグリガ、ホソガ、シンクイムシ、カミキリムシなどハエ目、チョウ目、コウチュウ目害虫に対して経口又は経皮的に作用し、高い防除効果を示します。
- 浸透移行性  
茎葉部から作物体内に吸収され、作物全体へ浸透移行していきます。また、トランスラミナー作用により、葉の表から裏への移行性も示しますので、アブラムシなど葉裏に生息している害虫にも優れた防除効果を発揮します。
- 幅広い作物に使える  
稲、野菜、落葉果樹、かんきつ、茶、花きと幅広い作物に使用できます。
- 顆粒タイプの水溶剤  
顆粒タイプの水溶剤ですので、薬液調製時の粉立ちが少なく、また作物が汚れる心配が少ない薬剤です。